

---

# とっても甘い風邪薬

瑠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とっても甘い風邪薬

### 【Nコード】

N0473A

### 【作者名】

瑠

### 【あらすじ】

（7歳時の話です）蘭が風邪をひいてしまう。薬を嫌がる蘭に、お見舞いに来た新一は……

（前書き）

ちび新蘭のお話です。二人とも七歳、小五郎さんと英理さんはまだ同居中の頃のお話……

（注：コナンは「世紀末の魔術師」の時に誕生日を迎え、1歳だけ歳をとったという事になっています。小説自体には、なんの影響もありませんが、どうぞご了承ください。）

昔々、といってもそんなに遠くない昔、十年前のお話、そう、ちょうど「コナン君」と呼ばれている少年（じつは青年）が本当に「コナン君」の歳、つまり七歳だった頃……

「ヒツ…クシユン！クシヤン！……おかあさん、のどがいたいよう……クシユツ。」

「あらら、蘭。お風邪ひいちゃったみたいね……あなた、どうします？」

「風邪薬飲ましとくしか無いだろ……。」

あらあら、蘭ちゃんはどうやら風邪をひいてしまったみたいです。

「やっぱり昨日半袖で寝かせたのが悪かったのかしら？」

「だろうな……。結構冷え込んだもんね。俺達でも寒かったんだ。」

「蘭、寝相悪いしね……。」

「蘭、お薬よ。はい、アーンして？」

蘭ちゃんのお母さんである英理さんが、スプーンに注いだ赤色の液体をもつてきます。が……

「いやつ。」

「蘭？ほら、お薬。」

「いやあっ！」

「どうしたの？ほら、飲まないとお風邪、治らないわよ？」

「いやったらいやなの！！」

どうやら蘭ちゃん、風邪薬を嫌がってるようです。でもそれでは、風邪は治りません。すると………？

「らあん!! だいじょうぶかつ?」

「英理、蘭ちゃんのお見舞いに来たわよvv」

「いや毛利君、久しぶりだなあ。」

蘭ちゃんのお友達である工藤新一君とその両親がお見舞いに来てくれました。

「らんっ!」

「ふえっ……しんいちい……」

「英理、蘭ちゃんはどうなの?」

「それが……蘭、薬を飲んでくれないのよ。」

『えっ!?』

「らん、くすりをのまなきゃダメだよ?」

新一君は優しく蘭ちゃんを諭します。ところが……

「いやなの。おくすりのみたくないっ!」

「……らん?」

「どうしても……いやなの……」

「らん……。」

「どうして、らんはおくすりのみたくないんだ?」

新一君が蘭ちゃんに薬を拒む訳を聞いています。すると……

「だって……ドドロロして、のみにくいし……それに、にがいのんだもん……。」

という訳だそうです。

「蘭、これは子どものお薬なの。だから、甘くできてるのよ。それ

なら飲めるでしょ？」

「うん…………でもお…………。」

やっぱり、「飲みにくい」のが嫌だそうです。すると…………？

「おばさ…………っ!？」

英理さんがにつこりと微笑んでいます。しかし、とても怖そうなお  
ーラがただよっています。

「…………おねえさん、らんのおくすりかしてちょうだい？」

「新一君?…………まあ、気を付けなさい。こぼさない様にね。」

新一君が蘭ちゃんのお薬を借りました。そして…………？

『『あつ!?!?』』

なんと、薬を口に含んでしまいました。そして蘭ちゃんに近づくと

…………

「おっ?」

「あらら…………」

「新ちゃん、やるわねえ…………vv」

「ああっ!?!?このクソ坊主、蘭に何すんだ!?!」

蘭ちゃんと唇を重ねたのです。

『んっ…………』

やがて、二十秒程経過した時、新一君はやつと蘭ちゃんから離れました。二人の唇には、赤い薬が付いていて、まるでリップグロスを塗った様。

それに、赤いのは唇だけではありませんでした。二人とも、熟れたリンゴのように真っ赤になっています。

やがて、新一君が先に口を開きました。残った液体を舐め取ると、

「／／／らん、これでちゃんとおくすりのめただろ？／／／／」  
「うん……／／／／」

「あとはぐっすりねむればだいじょうぶ。ちゃんとなおるとおもうよ。」

「ありがと、しんいち。とってもあまかったよvv」

二人ともとっても幸せそう。それを見ていた四人の大人たちは、こんな事を考えていたそうです。

「うふふ、蘭ちゃんがウチの娘になってくれる日も、そう遠くはないかもvv」

「蘭、幼馴染が相手だと苦勞するわよ……」

「ほう、なかなかやるな。さすが私の息子だ。」

「くそう、俺の蘭を……」

四人ともに共通していた考え、十五年後の二人の姿…おそらく同じだったでしょう。

後日談：

次の日、蘭ちゃんの風邪はすっかり治っていました。「お薬」が効いたのでしょうか。効果抜群だったのは、どっちの「お薬」かな…？

そして、工藤宅から、まだ小さな男の子のクシャミと共に、

「あら、新ちゃんまでお風邪ひいちゃったみたい。蘭ちゃんにうつされたのかしら…？」

なあって女性の声が聞こえてきたのはまた、別のお話。もうすぐ、暖かい春が訪れることでしょう。

あれから十年経ち、今、二人は十七歳。「初めてのキス」から十年後、「二人の幸せ」から少しだけ寄り道をしているようです。でも、「雨降って地固まる」ですものね。きつと、「幸せ」はそう遠くないはずです。

そして五年後、昔々の大人の「妄想」が現実となるのはどうやら、これも間違いないようです。

これ以上無いほど幸せそうな、白い礼服に身を包んだ若い男女の晴れ姿……。

「工藤新一、並びに毛利蘭、貴方達はこれから一生、死が二人を引き離すまで、健やかな時も病める時も、助け合い、愛し合い、共に生きていく事を誓いますか…？」



『はい、誓います。』

白いチャペルの下、大きな彩々のブーケ、微笑む若いカップル……

暖かい春は、すぐそこです。

## （後書き）

く作者よりく

ちび新蘭です。これが初小説です。つまり処女作です。笑ってやってください。

感想をお書きになって頂ければ、天にも上るほどの気持ちになるはずです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0473a/>

---

とっても甘い風邪薬

2010年10月10日06時36分発行